

臨床検査専門科目	生物化学分析検査学					
		1単位	実験・実習	平成30年度	後期	3年次
臨床検査学科	必修					
科目名	環境検査学実習 Practicum of Environmentology					
担当教員	◎都築英明 瀧本順三郎 中村彰宏 野口延由					
目的	<p>環境とは生物を取り巻く多種類の外的要因のことである。本実習では自然環境の主要因である水・大気・騒音に加え、人工産物が生物におよぼす影響を直接計測することにより環境検査の概要を学ぶ。具体的には、上・下水水質検査、大気汚染物質検査、騒音測定、施設見学（上水道検査施設、公衆衛生行政組織、医療廃棄物処理、環境関連資料館）などを実施し、環境要因とその対策を正しく評価できることが目的である。</p>					
目標	<p>保健統計学、衛生管理学などで習得した基礎知識を元に、公衆衛生および環境検査の種類、意義、限界等について詳細を説明できる。各種環境検査の手技を理解する。見学によって得られた知識について、その目的合わせたレポートを作成することができる。具体的には、環境要因に関するさまざまな情報を正しく理解できる。環境要因に関する検査項目を適切な方法で計測または評価できる。</p> <p>公衆衛生関連 ① 上水道検査施設、医療廃棄物処理施設、公衆衛生行政施設、公衆衛生関連設備展示施設を見学し、それぞれの役割と意義について説明できる。</p> <p>環境検査関連 ① 上下水水質検査、大気汚染物質、騒音検査について説明できる。 ② 代表的上下水水質検査、大気汚染物質測定、騒音検査測定が実施できる。</p>					
他科目との関連	保健統計学、衛生管理学					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	レポート	提出レポートの成績				1
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	天理医療大学 環境検査学実習マニュアル（実習開始前に配布予定）					
参考資料	衛生学・公衆衛生学実習（医歯薬出版）、天理参考館HP、収蔵品DVD等 http://www.sankokan.jp/index.html					
備考 (受講上注意、 事前学習等)						